



本号の内容

1. 海外トピックス：日本、インドネシア、インド、フィリピン
2. 最近寄せられた相談事例(Q&A)：中国からのレアメタル輸入について

1. 海外トピックス

📄 日本：2025年 農林水産物・食品の輸出実績（詳細）を発表

農水省は4月、2025年の農林水産物・食品輸出の詳細を発表しました。輸出額は前年比12.8%増の約1.7兆円でした。最大の輸出先は米国で、同13.7%増の2,762億円、品目別では緑茶が同98.2%増の721億円で、輸出先は米国・ドイツ・英国が上位でした。

📄 インドネシア：電動バイク・電気自動車の新規購入に優遇策を年内導入

財務大臣は年内に、電動バイクの新規購入に1台あたり500万ルピア（約4.5万円）の補助金（上限10万台）を支給し、電気自動車にはVAT等の優遇措置（同10万台）を適用する施策を導入する方針を発表しました。詳細は決定次第、関係省庁が公表予定です。

📄 インド：2025/26年度の新車販売台数が過去最高

インド自動車工業会は4月14日、2025/26年度（2025年4月～2026年3月）の乗用車新車販売が前年度比8.8%増の464.3万台と、過去最高だったと発表しました。物品・サービス税（GST）と個人所得税の減税、インド準備銀行の利下げが追い風となりました。

📄 フィリピン：第13次外国投資ネガティブリストを改定

政府は、第13次外国投資ネガティブリスト（大統領令第113号）を5月に施行しました。今回のリストでは、払込資本2,500万ペソ（約6,470万円）未満の小売業について、外資出資を40%まで認めることなどを定めています。

2. 最近寄せられた相談事例 (Q&A) : 中国からのレアメタル輸入について

Q 取引先企業は中国からレアメタル（希少金属）やその関連製品を輸入していました。しかし、中国が輸出規制を強化したため、これらの商材の調達が困難になったと聞いています。規制の内容を教えてください。

A 中国は、デュアルユース（軍民両用）に該当する品目について輸出管理を行っています。レアメタル（希少金属）と呼ばれる品目の一部も輸出管理の対象となっており、中国から当該品目を輸出するには当局の許可が必要です。

1. レアメタルに関連する輸出管理規制

中国は 2023 年 7 月以降、レアメタル（希少金属）等に関連する輸出管理を強化してきています。次の表は、現在中国が輸出管理を行っているレアメタル（希少金属）に該当する鉱物について、輸出管理の開始（施行）時期、主な用途、および中国の世界シェアをまとめたものです。

対象鉱物	輸出管理開始	主な用途	中国シェア
ガリウム	2023 年 8 月	半導体材料、発光ダイオード	約 95%
ゲルマニウム	2023 年 8 月	光ファイバー、赤外線感知機器、太陽電池	約 60~70%
アンチモン	2024 年 9 月	難燃剤、鉛蓄電池、半導体	約 45~55%
モリブデン	2025 年 2 月	高強度鋼（航空・自動車・船舶）、潤滑剤	約 40~45%
インジウム	2025 年 2 月	液晶ディスプレイ、太陽電池	約 50~60%
テルル	2025 年 2 月	太陽電池、半導体	約 60%
タングステン	2025 年 2 月	超硬工具、半導体製造装置	約 80%以上
ビスマス	2025 年 2 月	医薬品、化粧品、半導体・電池材料	約 70~80%
レアアース 7 種	2025 年 4 月	希土類磁石、小型モーター	約 90%

（出所）各種資料を参考に信金中金作成

2. 日本に対するデュアルユース品輸出規制について

中国商務部は 2026 年 1 月 6 日、日本向けに輸出されるデュアルユース品について、輸出管理を強化する旨の公告（商務部 2026 年第 1 号）を発表しています。これにより、軍事関連企業の輸入者、軍事目的での使用、および日本の軍事力向上に貢献しうるすべてのエンドユーザー向けの輸出を禁止し、違反した者については法的措置を講じるとしました。

<編集・発行>
信金中央金庫
企業成長推進部 グローバル事業推進室
東京都中央区八重洲 1 丁目 3 番 7 号
<http://www.shinkin-central-bank.jp/>
Tel : 03(5202)7703

本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって投資等についてはご自身の判断によってください。また、本レポート掲載資料は、信金中央金庫が信頼できると考える各種データにもとづき作成していますが、信金中央金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更するご2がありますのでご注意ください。